

ダブルアップDG®で安定した薬剤処理層を形成！

長い残効性と幅広い散布適期で、発生頻度の増えている集中豪雨にも対応を

近年、地球温暖化等の影響で集中豪雨の発生頻度が増加していると言われています。気象庁のデータによると、大雨の年間発生回数は有意に増加しており、より強度の強い雨ほど増加率が大きくなっています。また、1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨は、1980年頃と比較して、おおむね2倍程度に頻度が増加しています。

(情報元：気象庁HP https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html)

このような気象変動の状況においても、高い除草効果を維持するためには安定した薬剤処理層を形成できる薬剤を使用することが重要です。



気象庁ホームページ

ダブルアップDGの特長

【安定した薬剤処理層の形成】低い水溶解度、高い土壌吸着性、低い土壌下方移動性 → **長い残効性**

【優れた効果】幅広い殺草スペクトラム、特にチドメグサや一年生広葉雑草に対して優れた効果。

【高い安全性】日本芝、西洋芝への高い安全性。ドリフトや持ち込みの心配が少ない。

安定した薬剤処理層の形成

シクロスルフアムロン(ダブルアップDGの有効成分)と他の有効成分との水溶解度、土壌吸着定数の比較

ALS阻害剤の有効成分	水溶解度 (ppm) 20℃ 数字が小さい程、 水に溶けにくい	土壌吸着定数 (Koc) 25℃ 数字が大きい程、 土壌に吸着されやすい
シクロスルフアムロン	0.34	873 - 1,137
ハロスルフロンメチル	10.2	27.9 - 286
クロリムロンエチル	381	30 - 168
フルセトスルフロン	16.5	2.67 - 16.6
ヨードスルフロンメチル ナトリウム塩	25,000	29.7 - 69.4

シクロスルフアムロンは他有効成分と比べて、桁違いに水溶解度が低く、土壌吸着定数が高い。

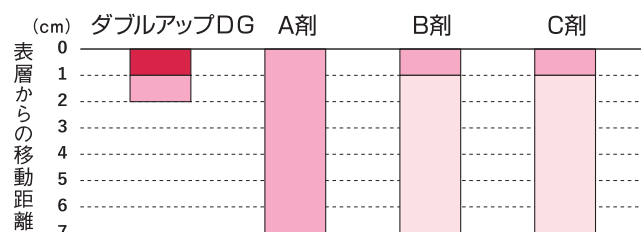
降雨で流れにくい。

ダブルアップDGの土壌中での下方移動性

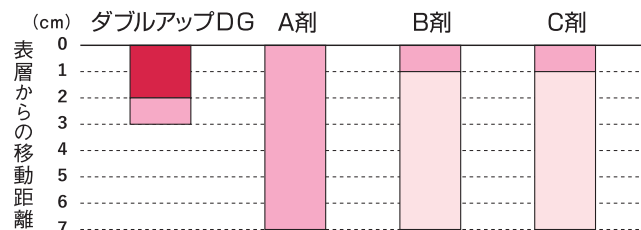
【試験場所】緑地環境技術研究所温室内

薬剤処理後2～3時間の間に計30L/m²の水(30mmの降雨に相当)を散水した。

〈埴壌土における下方移動性〉



〈砂壌土における下方移動性〉

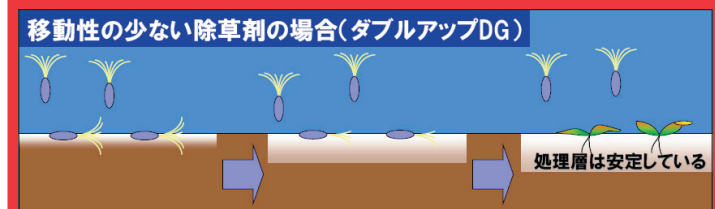
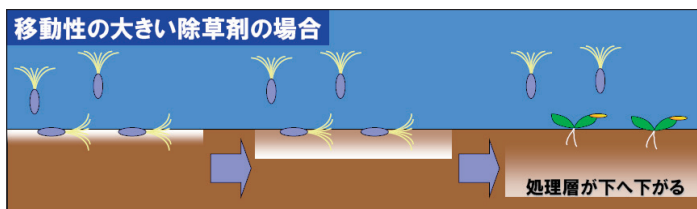


■ 薬剤の残留極大 ■ 薬剤の残留大 ■ 薬剤の残留中

ダブルアップDGは、同系統の除草剤より土壌中での下方移動性が総じて小さく、且つ土壌の種類・条件による移動性の変化が少ない。

安定した薬剤処理層を形成、維持！

【土壌下方移動性と除草効果の関係(モデル)】

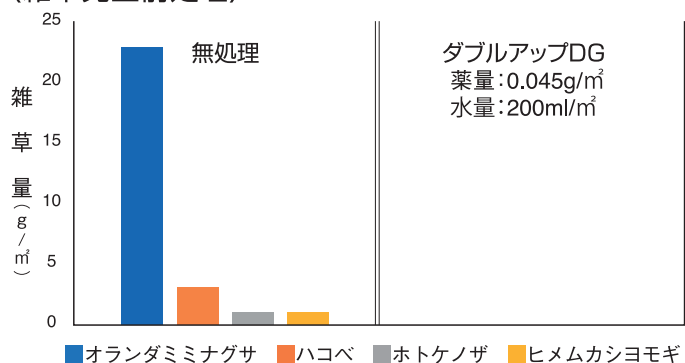


土壌下方移動性の低い薬剤の場合、処理層が安定しているので、外部から侵入してくる雑草に対しても高い除草効果が期待できる！

【ダブルアップDG試験事例の紹介】

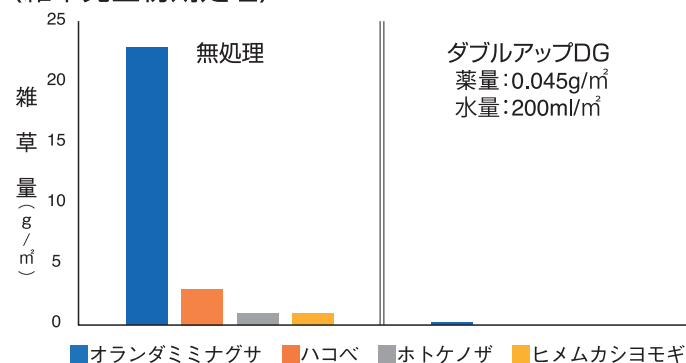
【試験場所】日本植物調節剤研究協会研究所試験圃場(茨城県)

〈雑草発生前処理〉



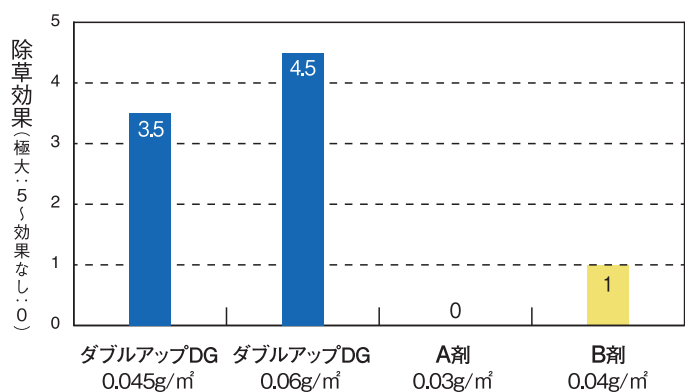
芝 種: コウライシバ
土 壌: 火山灰土・軽埴土
処 理 日: 9月24日
調 査 日: 翌年3月4日
薬 害: なし

〈雑草発生初期処理〉



芝 種: コウライシバ
土 壌: 火山灰土・軽埴土
処 理 日: 10月9日
調 査 日: 翌年3月4日
薬 害: なし

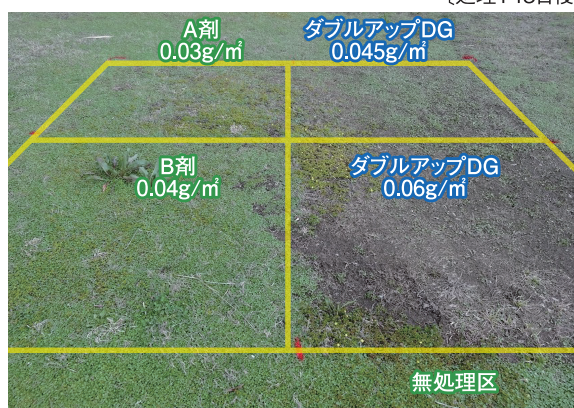
【秋期処理によるチドメグサの除草効果】



試 験 場 所: 茨城県Aゴルフ場(裸地)
水 量: 200ml/m²
展着剤サーファクタントWK加用(1000倍)
薬剤処理日: 11月21日(チドメグサ生育終期)
調 査 日: 4月15日(処理後145日)

〈裸地での試験事例〉

[処理145日後]



ダブルアップDGの
製品情報(リーフレット)は
こちらから

